

安全・安心科学技術プロジェクト（地域社会分野）平成 21 年度の進捗に関する推進委員会からのコメント

【全課題共通】

- ・ プロジェクト終了後も持続的に運用・管理できるメカニズムを確立していただきたい。地域住民・行政の双方がインセンティブを持てるよう、平常時・緊急時の資源兼用や人材育成を引き出すことも重要である。
- ・ 得られた知見について、「プロセスの技術」としての集大成をお願いしたい。実装のプロセスの分析を進めるとともに記述として残し、他地域への展開に生かせるようにしていただきたい。

	H21 年度進捗に関する主なコメント	H22 年度研究計画に関する主なコメント
【H20 年度採択課題】 住民・行政協働ユビキタス減災情報システム <u>山梨大学（鈴木 猛康）</u> 東京大学、(独)産業技術総合研究所	・ 地域住民の理解と動機形成ができた上で情報システムを紹介する手順も適切であり、よく努力されている。 ・ 3つのモデル地域で条件の違いに応じた取り組みを行っているが、そこで得られた知見を一般化できれば、実装の方法論の構築のための良い成果となるのではない。 ・ 地域行政の役割がまだ十分明確でない。情報システムを日常的に役立つものにして、地域行政との連携を構築し、最終年度の具体的な成果につなげるべき。	・ 活動に発散傾向が見受けられる。3年間の活動を成果にまとめることが重要。 ・ 住民及び地域行政の理解・協力・連携が重要であることから、地域との関係が構築できた2地域において、これまで開発したシステムの運用に注力したうえで、県からの協力も得る、との形で行うべき。 ・ 甲府市での新規の取組みについては、最終年度に開発を始める必然性が認められない。 ・ 事業終了後の管理のインセンティブを行政・住民双方に持たせることが重要。システムの継続性を保つための平常時との資源兼用や人材育成を引き出すべき。
【H20 年度採択課題】 地域水害リスクマネジメントシステムの構築と実践 <u>熊本大学（大本 照憲）</u>	・ 住民参加のプロセスや、PDCA サイクルを複数回して着実に実装が進められていることも含め適切に進められている。定めた目標に対して着実な成果を上げている。 ・ 住民のニーズを的確に反映するための情報システムの開発能力については若干不安もあるが、住民のニーズを的確に捉え、丁寧な対応が行われている。 ・ 既に他地域にも展開している点や、他地域への展開の方法論も出来ていることは高く評価できる。	・ 全課題共通事項にあるコメントを参照して、計画を予定通り進めていただきたい。他地域に移転しうる情報技術及びプロセス技術上の成果を期待している。
【H20 年度採択課題】 時空間処理と自律協調型防災システムの実現 <u>東京工業大学（角本 繁）</u> 京都大学、(独)防災科学技術研究所、(株)テクノ	・ 地域と密に連携し、住民と行政の双方がインセンティブを持つシステムとして開発が進んでおり、プロセス研究も着実に進んでいるなど、適切に進められており、十分な成果が期待できる。 ・ 明確で具体的な理念の下、概略図と詳細地図の対応など、住民や行政のニーズをきめ細かく吸い上げてシステムに反映させている点は、高く評価できる。	・ システムの定着を目指し、防災訓練での経験を重ね、実証と運用評価を進めていただきたい。 ・ 全国に普及させるための活動を特にお願いしたい。プロセス研究をさらに進め、地域特性ごとの実装のあり方を分析することで、他地域への普及に生かしていただきたい。実装のプロセスの記述も含め、適切なドキュメントや伝承システム（マニュアル類）も残していただきたい。 ・ 平常時におけるシステム運用から得られる対行政、対住民のメリットを、定量的・定性的に整理しておいて欲しい。 ・ 平成 22 年度計画にある無線 LAN など、実装へ向けて必要な事項に取り組んでいただきたい。